

华南理工大学
2017 年攻读硕士学位研究生入学考试试卷

(试卷上做答无效, 请在答题纸上做答, 试后本卷必须与答题纸一同交回)

科目名称: 日语

适用专业: 英语语言文学; 外国语言学及应用语言学

共 20 页

I 読解 (60 点)

次の文章を読んで、1～30 の問いに答えなさい。答えは選択肢 A B C D からもっとも適切なものを一つ選びなさい。(2 点×30=60 点)

(一)

文章を書くことは苦しい。しかしまた楽しい。書きたいテーマは脳中にあるが早く文字化されることを待っている。頭のはたらきの調子のよい時には、(1) 目白押しで待っているといってもそれほど言い過ぎではない状態になる。

しかし、ひるがえって思うに、文章を書くことは(2)。書くなどということは、おそるべく、慎むべきことである。

人は自分の持っているものを文章化する。それによって他人を益することもあれば、世に刺激を与え、問題を投ずることもできよう。けれども、人が「持っている」ものは(3) タカが知れている。「持っていない」もののほうがはるかに多いのだ。

知識、思想、表現力、人格の感化力——どれをとってみても、各人の持っているものは知れている。他人を益するだけの、問題を投ずるだけの、楽天的にかまえてばかりいられない。書くことは、おのれの足らざるところを人に示す行為である。かくすより現れる。内にあふれるものが行間に読み取れることがある代わりに、内に何が欠けているかが見え透いて、(4) 読者の気持ちを寒々とさせることもある。人は、あまりにしばしば、書いて自己の貧困を世にさらす。

足らざるを露呈するだけではない。思いの内容を過不足なくことばにあらわすこと、これがまた容易ではない。事実関係の再構築に手間取る、どこかにスキ間が残る。それを文字化する、(5) スキ間がある。ことば足らざるもどかしさは、(6) いつまでも尾を引いて心が平らかでない。

けれども、また思うに、これは、表現すること、さらに人が生きることの背負っている宿命というのかもしれない。——人間は自分の思いや考えを他者に伝えたくて、言語という記号を創り出した。言語は記号で

あつて、思いそのもの、考えそのものではない。選び出されたことばの列が思いや考えを写しているに過ぎない。(7)、実際の風景と、カメラで写した風景とに違いがあるように、実際の思いや考えと、言語によるその表現との間には、常に微妙なズレがある。

賢者は黙して語らない。書くことも話すこともせず、ひたすら沈黙を守って世間の尊敬を受けている。壁にむかって九年間も沈黙を続けた達磨大師の面壁九年は、さしずめ、その好例と言っている。黙っていれば、恥をかかずにすむ。凡夫も沈黙さえしていれば、少なくともあの恥の苦しきだけは感じないでいられるだろう。

そう思っても、そういう考えをここにこうして書いて、(8) 新しい恥の種をまくのが、人間の特に凡夫の業というものなのだ。

(中略)

もともと、人間という生物には、ムレを作らずには生きていけないという弱さがある。かれらには身を守るための毛皮もなければ、敵を攻撃するための牙もない。だから集団の力にたよらざるをえない。生活に必要な道具にしても、もしも集団がなかったら、ひとりで作り出すのは大変だ。こうして、人間はムレの中で生き続けてきた。表現を変えて言えば、(9) 人間は社会的生物なのだ。

ことばというものも、社会的生物としての人間が創り出した「道具」の一つだ。ムレを作って生活する(10) 以上、自分の考えを他人に伝える方法はどうしても必要になってくる。そうして、考え出された記号(シンボル)がことばというものだ。

1. (1) 目白押しで待っているとは、この文章においてどんな状態だろうか。

- A. 出来事がぎっしりと並んでいて、順にされるのを待っている。
- B. 出来事がぎっしりと並んでいて、文字化されるのを待っている。
- C. 目が白くなるほど物事を考え、押し出される順番を待っている。
- D. 頭に目白という発想を押し出すのを待っている。

2. (2) に入る言葉として、もっともふさわしいのはどれか。

- A. うれしい
- B. 楽しい
- C. くやしい
- D. おそろしい

3. (3) タカが知れているとは、どういう意味か。

- A. 自分の高さが知られている。
- B. 程度のすごさが分かっている。

- C. その程度を図ることができる。
- D. その程度しかないと分かっている。

4. (4) 読者の気持ちを寒々とさせるの理由はどれか。

A. 文章を読んで何かを得ようとする読者の期待がはずれて、がっかりさせてしまうからである。

B. 文章を読んで何かを得ようとする読者の期待がはずれて、鳥肌を立ててしまうからである。

C. こんなものも文章といえるかと、読む人の気持ちを悪くし、鳥肌を立ててしまうからである。

D. こんなものも文章といえるかと、読む人の気持ちを悪くし、がっかりさせてしまうからである。

5. (5) に入るのはどれかか。

- A. ただ B. また C. まで D. ぜんぜん

6. (6) いつまでも尾を引いて心が平らかでないとあるが、なぜそうなるのか。

A. どう書いてもスキ間が出るので、心が落ち着かない。

B. スキ間を埋めることばが見つからなくてあきらめる。

C. どうしてことばが足りないのか思い当たらない。

D. スキ間が尾を引いて心に悪影響を与えてしまう。

7. (7) に入るものはどれか。

- A. ちかい B. ちつとも C. ちょうど D. ちよつと

8. (8) 新しい恥とは、どんな恥を指しているのか。

A. 黙していればいいことを分かっているながらも、自分の考えを書く恥

B. 賢者でもないのに、黙して語らざる凡夫が自分なりの考えを書く恥

C. 凡夫でもないのに、黙して語らざる賢者が自分なりの考えを書く恥

D. 賢者なので、黙していればいいのに、思わず自分の考えを書く恥

9. (9) 人間は社会的生物なのだにある「社会的」をもっとも表してい

るのは何か。

- A. 集団で創り出す生活に必要な道具を使っているから
- B. 集団の力に頼って生きていかなければならないから
- C. 自分の考えを他人に伝えることばを持っているから
- D. 身を守る毛皮も敵を攻撃する牙も持っていないから

10. 文中(10) 以上の使い方と同じようなものはどれか。

- A. よく準備したので、予想以上の成績を収めることができた。
- B. 内容と言語表現、以上の二つが審査時のポイントとなる。
- C. 約束した以上、かならず実行しなければならない。
- D. もう限界だ。これ以上忙しい生活には耐えられない。

(二)

私は前後約十二年北海道で過した。しかも私の生活としては一番大事と思われる時期を、最初の時は十九から二十三までいた。二度目の時は三十から三十七までいた。それだから私の生活は北海道に於ける自然や生活から影響された点が多々多いに違いないということを思うのだ。けれども今までに取りとめてこれこそ北海道で受けた影響だと自覚するようなものは持っていない。自分が放漫なためにそんなことを考えて見たこともないのに依るかも知れないが、一つは十二年も北海道で過しながら、碌々旅行もせず、そこの生活とも深い交渉を持たないで暮して来たのが原因であるかも知れないと思う。

然し兎に角あの土地は矢張り私に忘られないものとなってしまう。この間も長く北海道にいたという人に会って話した時、あそこにいる間はいやな処だと思うことが度々あったが、離れて見ると何となくなつかしみの感ぜられる処だなといったら、その人も思っていたことを言い現わしてくれたというように、心から同意していた。長く住んでいた処はどんな処でもそういう気持を起させるものではあろうが、北海道という土地は特にそうした感じを与えるのではないかと私は思っている。

北海道といってもそういうことを考える時、主に私の心の対象となるのは住み慣れた札幌とその附近だ。長い冬の有る処は変化に乏しくてつまらないと人は一概にいうけれども、それは決してそうではない。変化は却ってその方に多い。雪に埋もれる六ヶ月は成程短いということは出来ない。もう雪も解け出しそうなものだといらいらしながら思う頃に、

又空が雪を止度なく降らす時などは、心の腐るような気持ちになる(ア)

けれど、一度春が訪れ出す(イ)、その素晴らしい変化は今までの退屈を補い尽してなお余りがある。冬の短い地方ではどんな厳冬でも草もあれば花もある。人の生活にも或る華やかさがついてまわっている。けれども北海道の冬となると徹底的に冬だ。凡ての生命が不可能の少し手前まで追いこめられる程の冬だ。それが春になると一時に春になる。草のなかった処に青い草が生える。花のなかった処にあらん限りの花が開く。人は言葉通りに新たに甦って来る。あの変化、あの心の中にうずうずと捲き起る生の喜び、それは恐らく熱帯地方に住む人などの夢にも想い見ることの出来ない境だろう。それから水々しく青葉に埋もれてゆく夏、東京あたりと変らない昼間の暑さ、(ウ) 眼を細めたい程涼しく暮れて行く夜、晴れ日の長い華やかな小春、樹は一つ一つに自分自身の色彩を以てその枝を装う小春。それは山といわず野といわず北国の天地を悲壮な熱情の舞台にする。

1 1. 文中の「ア」にはいるのはどれか？

- A. ことがないのではない B. わけにはいかない
C. はずがない D. ものではない

1 2. 文中の「イ」にはいるのはどれか？

- A. たら B. ば C. と D. れば

1 3. 私が北海道から特に影響を受けていない理由としてふさわしくないのはどれか。

- A. そこの生活と深い関わりを持たない。
B. 北海道で暮らしながら、遊びに出かけることがない。
C. 私が放漫なためだ。
D. そこでの日々が忘れられないからだ。

1 4. 私にとっての北海道とはどんなところか。

- A. いるときは嫌でも、離れてみたら懐かしく思うようになるところだ。
B. 変化にが少なくつまらないところだ。
C. どんな厳しい季節でも緑いっぱいなところだ。
D. いつもいらいらさせられて、心の腐るような気分になるところだ。

15. 文中の(ウ)「眼を細めたい」の解釈として当てはまるのはどれか。

- A. 怒る B. くるしい C. 気持ちいい D. つかれる

(三)

僕の経験するところによれば、今の小説の読者といふものは、大抵はその小説の筋を読んでいる。その次ぎには、その小説の中に描かれた生活に憧憬を持っている。これには時々不思議な気持がしないことはない。

現に僕の知っているある人などは随分経済的に苦しい暮らしをしながら、富豪や華族ばかり出て来る通俗小説を愛読している。のみならず、この人の生活に近い生活を書いた小説には全然興味を持っていない。

第三には、第二と反対に、その次ぎには読者自身の生活に近いものばかり求めている。

僕はこれらを必ずしも悪いこととは思っていない。この三つの心持ちは、同時に僕自身の中にも存在している。僕は筋の面白い小説を愛読している。それから僕自身の生活に遠い生活を書いた小説も愛読しないことはない。最後に、僕自身の生活に近い小説を愛読していることは勿論である。

然し、それらの小説を鑑賞する時に、僕の評価を決定するものは必ずしも、それらの気持ではない。若し僕が(読者として)世間の小説の読者と違っているとすれば、こういう点にあると思っている。では何が僕の評価を決定するかといえば(ア) 感銘の深さとでもいうほかはない。それには筋の面白さとか、僕自身の生活に遠いこととか、或はまた僕自身の生活に近いこととかいうことも勿論、幾分か影響しているだろう。然しそれらの影響のほかに未だ何かあることを信じている。

この何かに動かされる読者の一群が、(イ) 読書階級と呼ばれるのである。あるいは文芸的知識階級と呼ばれるのである。

こういう階級は存外狭い。おそらくは、西洋よりも一層狭いだろう。僕は今、こういう事実の善悪を論じているのではない。唯事実として一寸話すだけである。

16. 文中に下線のついた(ア)「感銘」の意味はどれか。

- A. 感動 B. 人気
C. 世間への影響 D. 理解

17. 僕から見れば、小説への評価を決定するのはどれか。
A. 社会からの評価 B. 感銘の深さ
C. 物語の筋 D. 自分の暮らしとのかかわり

18. 文中の（イ）にはいるものはどれか。
A. それなら B. つまり
C. ただし D. ついでに

19. この文章の内容に最も合っているものはどれか。
A. 知識階級は感銘の深さによって小説を評価している。
B. 読書階級は自身の生活に近い生活を書いた小説を愛読する。
C. 読者自身の生活に近いものを求めることは非常に素晴らしいことだと筆者が考えている。
D. 小説の筋によって小説を鑑賞、評価してはならない。

20. 僕の考えに一致しているものはどれか。
A. 僕は自分のライフスタイルに遠い生活を書いた小説を読まないようにしている。
B. 僕は自分の暮らしに近いものを描く作品を読まないようにしている。
C. 西洋では日本より知識階層が広い。
D. 知識階層は狭いが、教養があって、優れていると思う。

（四）

モノを大切にしながらすっきり暮らすには、買う量を減らすことです。

「品質がいいのにずいぶんお買い得だわ」というように、シーズン末期のバーゲンセールでは、シーズンはじめの定価の半額以下で売られるものが少なくありません。はじめの値段より大幅に値引きされていると、何か得した気分になって、少し気に入らないところがあっても妥協して買ってしまい（ア）です。こうした、「わあ、安い」と思ってたものが、本当に好きで気に入って買うのならば、まさしくお買い得ですが、品質の（イ）値段が安くても、あまり気に入らないものだと着ないことになりがちです。賢く買ったつもりで、（ウ）。値段で買っていいのは品質が良い消耗品だけ、そうでないものは厳しくチェックして本当に好きか必要か、吟味してから買いましょう。

それでは値段の高いものはすべていいものでしょうか。前にも言ったように、流行のものは高くてもそれほど質がよくないことがあります。日本の女性はルイ・ヴィトンなどの高価なブランド品のお得意さんとして有名ですが、あまりにも多くの人が持っていますし、自分のセンスに自信がなくてブランド物に頼っているようで、本当におしゃれな人や品格のある人は持ちません。自分の生活や必要に合わないモノは、(エ) どんなに質がよくて、価値があってももてあまします。

21. (ア) に入るのにふさわしい言葉を選びなさい。

- A. ほど B. ぐらい C. がち D. っぽい

22. (イ) に入るのにふさわしい言葉を選びなさい。

- A. わりあいには B. ともに
C. わりには D. ばかりに

23. (ウ) に入れる言葉として正しいのはどれか。

- A. 安い値段で購入してよかったです。
B. かえって浪費したことになります。
C. 品質の問題で悩んでしまう。
D. うれしく思っているわけです。

24. 文中の(エ)「どんなに質がよくて、価値があってももてあまします」とあるが、ここではどういう意味か。

- A. いくら値段が高くても、手に入れようと努力する。
B. どんなにいいものでも、自分に合わないものは、持っても意味がない。
C. 高価なブランドでも、自分の能力を超えたものに、人は魅力を感じる。
D. 価値があるものでも、自分の好みではないものは、他人に譲ったほうがいい。

25. 筆者がここで最も言いたいことはどれか。

- A. バーゲンセールの商品はだいたい品質に問題があるので、安くても買わないほうがいい。
B. 高価なブランドばかり買う女性は個性がない上に、センスが悪いと思われるかもしれない。
C. 自分の生活に必要なものや自分に合うもの以外は買わないほう

がいい。

D. 品質のある生活を送るためには、素朴で質素な暮らしをしなければならない。

(五)

日ごろ少しでも家事をしている夫「家事メン」のうち、頻度に差はあるものの70%が家事に積極的であることがパナソニックの行った調査で明らかになった。また、40代以上の既婚男性（夫）のうち「家事に興味のない人」が半数以上を占めたのに対し、20～30代の夫では「興味なし」が38%と4割以下にとどまり、若い世代の方が家事に対して積極的であることを示す結果となった。

調査は「家事ができる男性」「家事に興味がある男性」「家事をやらないといけない男性」など、日ごろから少しでも家事をしている男性を包括して「家事メン」と呼び、それぞれの生活に根ざした家事实態を明らかにしようと企画。20～30代の既婚男女各200人と40代以上の既婚男性100人を対象に、「男性の家事についてのアンケート」をインターネットで実施した。

調査結果をもとに「家事参加意識」「家事参加頻度」の二つの指標で家事メンを4タイプに分類したところ、家事に積極的で頻度も高い「本格家事メン」（35%）、家事に積極的だが頻度は低い「趣味家事メン」（35%）、家事には後ろ向きだが家事を行う頻度は高い「やらされ家事メン」（14%）、家事にも消極的で頻度も低い「アンチ家事メン」（16%）に分類され、家事メンのうち、70%が家事に積極的なことが分かった。

26. 以下の記述から正しい項目を一つ選びなさい。

- A. 70%の男が家事に積極的である。
- B. 40代以上の夫は20～30代より家事に興味を持っている。
- C. 家事メンは家事に積極的で、よく家事をする夫のことである。
- D. 家事に積極的でない家事メンもいる。

27. サラリーマンの健一さんは毎日奥さんの代わりに家事をしている。特に部屋を掃除するのが趣味だ。それに対して奥さんは怠け者で、ほとんど家事をやらない。この文章に従えば、健一さんのことは何と言うか。

- A. 趣味家事メン

- B. アンチ家事メン
- C. やらされ家事メン
- D. 本格家事メン

28. 家事メンとはどんな男性か。

- A. 一生懸命家事をする男性
- B. 家事をしたことのある男性
- C. 家事を行う頻度が高い男性
- D. 家事が趣味である男性

29. 「本格家事メン」と「趣味家事メン」の共通点はどれか。

- A. 家事に積極的だ
- B. 家事をする頻度が高い
- C. 家事を趣味とする
- D. 毎日家事をやらなければ行けない

30. 「家事メンのうち、70%が家事に積極的なことが分かった」にある「うち」の意味に該当するのはどれか。

- A. 三人のうちで、誰が一番年長ですか。
- B. 朝のうちにやってしまわなければならない。
- C. 私の心のうちは誰にもわかってもらえない。
- D. 山田さんのうちへ遊びに行こう。

II. 翻訳 (15点)

次の文章の下線のついた部分を中国語に訳しなさい。(3点×5=15点)

「会社の採用面接で何を着ましたか。新入社員100人に聞きました」。1981年の女性誌の特集だ。(31) 色でいえば、紺、グレー、茶・ベージュの順に多い。黒のスーツを着たと答えたのは1人にすぎない。

社会学者の難波功士さんが『「就活」の社会史』で紹介している。紫やピンクのスーツ、プリント柄のワンピースと回答した女子もいる。リクルートスーツといえは黒の今日、当時の多彩さに驚く。

本紙の過去の記事を見ると、黒が台頭するのは今世紀に入る前後だろうか。難波さんの表現を借りれば、「世の中の暗さを象徴するかのよう」に「モノトーン化が進んだ。(32) 服の色は変わっても、時代の波に翻

弄される就活生のつらさは変わらない。

またかどげんなりした学生も多いだろう。面接などの採用選考の開始を来年は6月にしたい。経団連がそんな方針を発表した。(33) もともとは4月で、今年から8月に繰り下げたばかり。就活の日程がくるくる変わるのは困りものである。

(34) 8月にしたのは、学業専念といった安倍政権などの要請があったからだ。やってみての評判は散々だった。まず、暑い。インターンシップの名目で3年生を対象に実質的な選考を始める企業もあり、むしろ就活が長期化したとの声もある。

悪評に朝令暮改もやむなしということか。とはいえ6月ならば万事解決ともいくまい。新卒一括採用という仕組みを手直しする余地はないか。

(35) より自由な就活を学生に。より多様な人材を企業に。両得の知恵はないか。

Ⅲ. 作文 (25点)

36. 次の指示にしたがって、450～500字の作文を書きなさい。

携帯電話とインターネットが普及した現代社会では、携帯は通話だけでなく、撮影、ゲーム、料金の支払いなど、様々な機能がつくようになっている。このような現象についてあなたの考えを作文に書きなさい。

注意：①漢字を使うべきところは漢字を使うこと。

②「だ・である」体で書くこと。